

第3回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事概要

■日時：

平成31年3月5日（火）10時00分～12時00分

■場所：

草津市立まちづくりセンター 202会議室

■出席委員：

中川委員、土山委員、重原委員、花澤委員、
梅村委員、宮下委員、井上委員、東川委員

■欠席委員：

辻委員、堀井委員

■事務局：

【行政】

中村副部長、角課長、服部参事、中立係長、大溝主事

【(公財)草津市コミュニティ事業団】

諸岡主事

【(社福)草津市社会福祉協議会】

村山主査

【協働コーディネーター】

阿部氏、仲野氏

■傍聴者：

1名

1. 開会

【事務局】

本日の会議におきましては、職員の協働・市民参加に対する意識調査結果、草津市協働のまちづくり推進計画の総括、第2次草津市協働のまちづくり推進計画策定に向けて議論いただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

それでは、中川委員長以後進行よろしくお願い致します。

2. 報告事項

【委員長】

事務局よりご説明いただきます。

【事務局】

<資料説明>

【委員長】

質問のある方はお願いします。

【B委員】

再任用の職員は何人ですか。

【事務局】

再任用職員のみ的人数は把握していません。

【C委員】

質問4より、「日頃より協働を意識し、周囲の意思をくみ取りながら実践できている」は3割である。もっと仕事の中で協働を位置づける必要がある。また、職員全員が、市民が町内会に入ることの重要性について学ぶ研修を受けるべき。

【E委員】

職員構成として、若い職員が多いことは希望である。若いうちに協働を体験することが大切である。

協働の分野は、テーマ型とコミュニティ型があり、それぞれで協働のやり方が違うということ具体的に提示すれば、若い職員がチャレンジするきっかけになるのではないか。

職員の方も市民であり、自身が地域に関わる大切である。逆の立場になった時にどうしてほしいかという体験がないと実際の業務に関して、一方向的になってしまう。

【F委員】

協力しながら働くということでは、協働が成熟していくために、お互いに共通するビジョン、良いところを尊重しながら進める仕組みが大切である。今後、行政と市民で同じビジョンを共有しながら物事を進めることが重要である。

【G委員】

まだ職員の意識を調査する段階であることに驚いた。実践の段階で課題等について話し合っている段階だと考えていた。

市民参加の手法については、フォーラム等に参加できない市民に対して、ライブ配信等により参加できる場があれば参加しやすいのではないかと。

【D委員】

様々な市民参加の手法があるので、地域で参加していけるようなものがあれば良いと感

じた。

【B委員】

協働事業をする中で、部署によって熱い思いを持っている職員と、直接的に関係ない職員の意識に温度差があると感じた。

市民参加の手法には様々なものがあるが、無作為により市民の意見を聞けるアンケート調査は効果的である。実際に協働事業を実施している主体に対しての調査があってもいいと感じた。協働に対する費用対効果で、質問8で「予算の負担軽減につながった」との回答が4%であるが、どのように分析しているか。

【A委員】

参考資料のクロス集計について、勤務年数が短い職員について、協働が有意義であると回答した方、また、市民参加を積極的に行うべきであると回答した方が一番少ない。これは今後の対策を考えるうえで重要なデータである。

質問10-2について、市民、まちづくり協議会、基礎的コミュニティについて、「自発性・自立性の向上」を強く期待する結果になっている。逆に言うと、自発性・自立性が十分にあると思っていないことの表れである。

質問14の3つ目の意見、「協働することによって逆に非効率な行政運営になることもある」という意見について共感する。全てを行政で実施すれば処理は早い。しかし、長期的に見れば、お互いを知るためにかけた時間は、まちづくりに意味や価値があることがわかる。

若い職員に協働を実践的に体験していただき、協働の意義ややりがいを感じていただくことが今後の課題である

【委員長】

それぞれの意見についてのコメントをお願いします。

【事務局】

町内会の意義について、職員も任意の組織と認識しており、今後は防災も含め、町内会の意義を訴えていく必要があり、職員も併せて市民に対して、より明確に、共有していく必要があると思っています。

行政コストの削減・予算について、協働の目的が行政コストの削減ではないと思っています。しかし、協働を進める際に、市民の多様化、限りある財政の中で取捨選択することが求められる中で、行政コストの削減をメリットと考えている職員もいるという結果であると考えています。行政コストの削減についての回答としては、質問8、質問11ともに低い数値ではあると思っていますし、そのような考え方があるという事実が確

認できたと感じています。決してこれが一番の目的であると職員は思っていません。

【委員長】

一部の職員から、協働することが非効率であるという意見が出ていることは危惧している。効率性を上げるために協働するわけでない。協働や参画で進めることは非常に非効率なものである。民主主義を深めていくためのコストであるということを徹底するべきである。

次に審議事項に移ります。

3. 審議事項

(1) 草津市協働のまちづくり推進計画の総括

【委員長】

事務局よりご説明いただきます。

【事務局】

<資料説明>

【C委員】

志津南学区の住民を対象に実施した、まちづくり協議会に対して期待していることや心配事等についての、アンケートの結果、防犯防災、自分や家族の健康、子どもの教育について関心が高かった。この内容に絞り、地域まちづくり計画を策定し、それに合った活動実施している。協働のまちづくり推進計画もこのような考え方で、市民の皆様から得た意見を計画に盛り込んで、運営していくことが重要となる。

【E委員】

公益活動団体の中でも、悩みや課題が共有できていないことが課題である。公益活動団体は、コミュニティ型より、自由度が高いゆえに100年先の計画が難しい。

担い手の問題において若者は、インターネット等での交流が活発になったことで、顔と顔を合わせ、NPOの設立や存続、活動の魅力を発信できているのかが悩みである。そこで中間支援組織の活躍が大きくなっている。働いている職員が仕事に誇りを持ち、コミュニケーション能力をつけていただきたい。様々な団体が繋がり事業を実施することが大切である。

【F委員】

大学で授業をやっていない時間に、キャンパスを使っていただくことで、連携する余地がある。今後事業の面からもさらなる連携を目指していく。

包括協定を結んでいる大学は、当時3大学から7大学に増えたが、草津市と立命館の連携内容は可視化しているが、他大学での連携内容の情報共有ができていない。今後各大学の横同士の連携ができれば良い。

【G委員】

町内会長の仕事について、負担が大きすぎるのが、町内会に加入したくないという声が出る原因ではないか。

包括協定を締結する大学とはどのような活動をするのか。また、地域ポイント制度についてもう少し詳しく聞きたい。

【D委員】

役員の担い手不足が課題である。町内会を脱退したいという雰囲気がある。今後どのような対策をとるかが課題である。

グラウンドでフェスティバル等をする際にグラウンドゴルフをすることが多いが、運動場がない場合、お金払って場所を確保しなければならない。固定されたグラウンドゴルフ場があれば高齢者がイキイキと活動できるので検討いただきたい。

【B委員】

担い手不足については、女性も出やすいような環境があれば良い。

市民まちづくり提案事業が休止になっているが事業内容を見直し、違う形で実施いただきたい。

【A委員】

実践の現場を広げる事業が市民まちづくり提案事業と協働事業実施しかないという印象があるが、それが減少しているのは残念である。

日々の業務の中で新たに協働を取り入れることは大変であると思うが、今後どのように協働を広げていくかを探さないと、現実味のない理念になってしまう。今実施している事業をどのように協働するスタイルにしていくかを現場の方の話を伺いながら考えていく必要がある。

協働事業ハンドブックを作られたということですが、どれくらい使われているのか。

【委員長】

それぞれの意見についてのコメントをお願いします。

【事務局】

大学事業との連携事業の内容ですが、一番多いのは審議会への参加、その他にも学生

のインターンシップの受入、調査業務の委託、講師依頼、イベントについては連携や共催で協力させていただいています。

地域ポイント制度については、地域の活動に参加された時にポイントを付与し、最終的にＱＵＯカードとして返ってくる制度をこの４月から各モデル学区で実施させていただいています。

協働ハンドブックについて、協働事業に関する考え方、協働委託に関する契約書も載せてあります。実際に契約される際は各担当課において使用いただいています。どれくらいの活用率があったかは把握していません。

【委員長】

総合計画の中に各主体の役割を示すことが重要である。行政の役割だけ記載するのではなく、市民にも役割を示す必要がある。

どの団体も、後継者の問題については、対策をとらないといけない。各主体毎に体系的にカリキュラムを整理し、講座を実施すべき。

大学との連携内容について、可視化しても良いのではないか。内容や目的、対象者等について示しても良いと考える。

(2) 第2次草津市協働のまちづくり推進計画策定に向けて

【事務局】

<資料説明>

【委員長】

来年度の地域円卓会議はいつですか。

【事務局】

6月29日(土)開催です。

【A委員】

論点提供者は、「この委員会で協働の計画を作っているが、どうしたらこの計画がもっとよく使われるのだろうか。」ということ話す。それに関して当事者や、経験者が様々な知見を出し、それを参加者が聞いて話し合い、「どうしたら協働のまちづくりが進むか」ということを考えてもらう。円卓会議というと課題解決に向けて、権限がある方が集まって審議するものをイメージするが、今回の円卓会議は、課題解決よりも、課題共有を目的としている。草津のまちづくりに「協働」を広げたい」ということを多くの方と共有する場面を作りたく提案した。2時間では足りないため、3時間はほしい。委員の皆様には、関係者として皆さんの友人や地域の方等、「協働」を共有

したい人に声をかけていただくことをお願いしたい。もちろん皆さんにも来ていただき、その後の当委員会での審議に生かしてけるような機会にさせていただきたい。

【委員長】

課題を共有すると引いてしまうのではないか。

【A委員】

テーマは、「協働のまちづくりを進めていくために、あなたも一緒に考えてください。」という投げかけを考えている。

【委員長】

「課題を共有しましょう」と言うと、人が集まらない傾向がある。「あなたはこの地域で何がしたい？何をこの地域に期待している？」というところから入らないと、人が来ないことが考えられる。「どんな地域であればみんなが楽しく安心して生きていけるか？」という問いかけが大切ではないか。

【A委員】

まちづくりに関わる活動をしている人を集めるのでなくても良い。生活の中で感じることを気軽に話していただけたら良い。もちろん関係者に来ていただける仕掛けができればしていきたい。

【E委員】

市民が当事者意識を持てるような会議のネーミング、「来てよかった」と思えるような楽しい要素を考えるべき。

【A委員】

これから実際に関わろうかなと考える人に来ていただけたら良い。
協働に関わる人や身近な人の話を聞いて、自身の意見や計画の目的等を共有できたら良い。

【E委員】

座る順番はバラバラか。

【A委員】

くじを引くなどして、知らない人と座ってもらいたい。
センターメンバーは協働に関わりのある方なので、その人たちに仲間を連れて来て

いただき、議論いただく。皆さんも、協働に対して何をしたら良いか、ちょっとでも共有してくれそうな人がいればぜひ連れて来ていただきたい。

【委員長】

少しレベルが高いように感じる。

【A委員】

今まで関わりがなかった方にも来ていただきたいし、市と協働で事業をしたが上手くいかなかったというコメントとして出てくれても良い。気軽に話し合ってもらっていただき共有できれば良い。

【G委員】

子育て世代は悩みは多いが、お世話が必要となり、参加が難しい。託児制度等があれば良い。

【A委員】

進め方については、これから相談していくが、まずは皆さんが友達に紹介したくなるものがあるのかなと感じる。御協力よろしくお願いします。

【事務局】

円卓会議につきましては、もう少し検討させていただき、副委員長ともお話しさせていいただき、お知らせさせていただきます。

【委員長】

以上を持ちまして本日の審議会を終了します。

4. 閉会
